（８）工学フォーラム２０１１
科学技術が実現する「安全・安心」社会の参加報告

田中俊幸

科学技術が安心・安全な社会づくりにどのように役立っているかを考える工学フォーラム２０１１科学技術が実現する「安全･安心」社会が平成 23 年 10 月 22 日(土)にアクロス福岡イベントホールで開催された．本フォーラムは国立大学５３工学系学部長会議及び読売新聞社が主催し，文部科学省及び科学技術振興機構が後援するものである．

最初に主催者である横浜国立大学理工学部部長石原治氏が「工学の「工」の字は、上下の横線の真ん中に一本線がある。上の板と下の板をうまくつなぐには、複雑な技や難しい細工が必要だ。工学は、工夫しながらものごとを作り上げていく学問である。今日は最新の研究を基に、防災・復興から安心・安全なくらしまで、様々な問題を議論していきたい。」との挨拶によりフォーラムは開催された．次ぎに文部科学省大臣官房審議官奈良人司氏により来賓の挨拶があり,残間里江子氏による「市民の視線と工学技術～専門家は何を発信すべきか」の特別講演があった．そこでは「日本は、技術力については世界に冠たるものを持っていると思う。しかし、それがその専門家の中だけで評価され､広く一般に伝わっていかないという問題がある。これからは技術を研ぎ澄ますだけではなく、その技術を人々に伝えること、コミュニケーションに努力しなければいけないのではないか｡専門家が発信すべきなのは、自分たちがやっていることの真実。それが一番だと思う。」という趣旨の講演であった．さらに「災害に強い町づくり～最新の研究から～」のテーマでパネルディスカッション１が行われた，パネリストは東京大学教授大島まり氏，岩手大学工学部副学部長西谷泰昭氏，新潟大学工学部長坪川紀夫氏，神戸大学海事科学部長小田啓二氏であり，コーディネーターは熊本大学工学部長里中忍氏であった．まず，災害に強い社会づくりのために過去の災害を分析し，課題や問題点を明らかにすることが大切であるとの問題提起があり，阪神・淡路大震災，新潟中越地震，東日本大震災の報告があり，議論が開始された．大島教授により「科学技術と社会を結びつけるためのコミュニケーション不足。これが様々な誤解や科学技術の信頼の危機に結びついている。互いにコミュニケーションをとっていくのが重要だ。」との観点から市民を対象とした情報公開の取り組みの紹介があった．最後に，「人を支える安

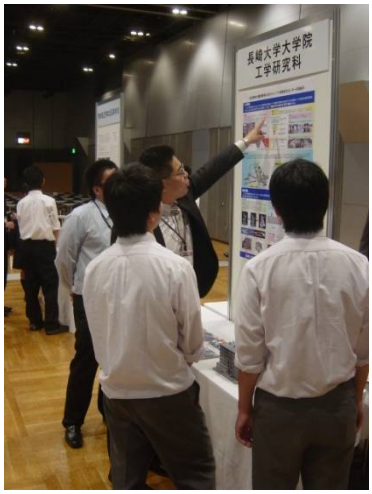
心・安全づくり～くらしの視点から～」のテーマでパネルディスカッション２が行われた.パネリストは株式会社テムザック代表取締役高本洋一氏,女優斉藤慶子氏,群馬大学工学部長板橋英之氏，長崎大学工学部長石松隆和氏，九州工業大学理事尾家祐二氏，コーディネーターは岡山大学工学部長谷口秀夫氏であった．ここでは工学が普通の暮らしにどのように関係しているのかについて事例や研究の紹介があり，問題点や今後の課題が議論された.

フォーラムのHPアドレス http://www.yomiuri.co.jp/adv/kougaku2011/

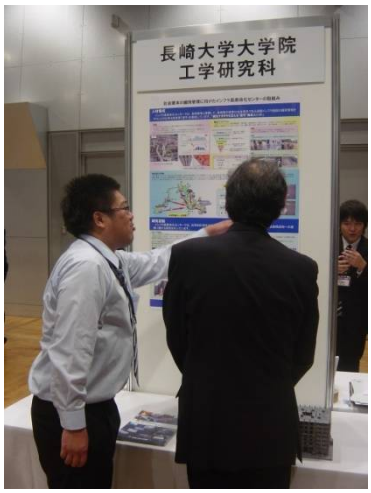
また，同じ会場内で各大学の工学関係の取り組みの発表や研究発表のパネル展が開催された．長崎大学からはインフラ長寿命化センターから社会資本の維持管理に向けた取り組みが紹介された．パネル展では高校生による研究発表も 10 件程度行われた．主に理数科の学生によるものであった.

会場の様子

パネルディスカッション２



パネル展の様子１



パネル展の様子２